# 浜松城跡 26 次発掘調査
## ―現地説明会資料―

浜松市文化財課　2019.10.19

浜松城は、三方原台地の東縁部にある段丘を利用した平山城です。1570 年、岡崎から浜松へと拠点を移した徳川家康は、今川氏配下の飯尾氏などにより整備された引間城を浜松城と改称し、西側の丘陵部へ拡張・整備を行いました。1590 年、徳川家康の関東移封に伴い豊臣氏家臣の堀尾吉晴が浜松城に入り、高石垣や瓦葺き建物を整備しました。現在の浜松城公園でみられる浜松城の石垣の多くは、堀尾氏により構築されたものとみられます。1600 年、関ヶ原の戦いに徳川家康が勝利し、浜松城は徳川譜代の大名が治めるようになりました。江戸時代、浜松城は浜松藩の拠点として近世城郭へと整備されました。浜松藩主は、交代が多く、9 家 22 代を数えます。いずれも徳川譜代の大名が藩主を務め、各家とも在任期間が 1 代～ 3 代と短期間でした。浜松城とともに整備された城下町は、現在の浜松市街地の基礎になっています。明治時代になり、1873 年に廃城令が発布され、1875 年には浜松城の二の丸や三の丸が民間に払い下げられ、市街地化しました。1950 年に浜松城公園が開設、1958 年には復興天守が建築され、2014 年には天守門が復元されました。なお、1959 年に浜松城の天守曲輪と本丸一帯が市史跡に指定され保護されました。

今回の発掘調査は、令和元年 6 月から浜松城に関わる歴史情報を得るために旧元城小学校の敷地を対象として行っています。旧元城小学校の敷地は、江戸時代の絵図によると、お誕生場や二の丸にあたります。

お誕生場は、２代将軍秀忠が誕生したとの伝承を持つ場所のひとつです。また、江戸時代の浜松城の二の丸には、藩主が居住や政務を執り行う御殿があったことが絵図から知られ、浜松藩の中枢部があった非常に重要な場所です。

浜松城推定復元図

浜松城歴代城主と出土遺物

| 西暦 | 城主 | 地域の支配者 | 関連出土品 | おもなできごと |
|---|---|---|---|---|
| 1560 | | | | 1560（永禄三）年　桶狭間の戦い |
| 1565 | 飯尾賢連・乗連・連竜 | 今川氏 | かわらけ（灯明皿）　瀬戸美濃天目茶碗 | 1565（永禄八）年　今川氏真、飯尾連竜を殺害 |
| 1568 | | | | 1568（永禄十一）年　徳川家康、遠江に侵攻 |
| 1570 | 徳川家康 | 徳川氏 | かわらけ（灯明皿）　瀬戸美濃折皿 | 1570（元亀元）年　家康、浜松城築城開始 |
| 1572 | | | | 1572（元亀三）年　三方原の戦い、家康敗北 |
| 1578 | | | | 1578（天正六）年　浜松城修築（天正九年まで） |
| 1579 | | | | 1579（天正七）年　築山殿と信康を殺害・秀忠誕生 |
| 1580 | | | | |
| 1586 | （城代）菅沼定政 | | | 1586（天正十四）年　家康、秀吉の臣下となる |
| 1590 | 堀尾吉晴・忠氏 | 豊臣氏 | 堀尾期軒丸瓦　堀尾期軒平瓦 | 1590（天正十八）年　秀吉、家康に関東移封を命ず |
| 1598 | | | | 1598（慶長三）年　秀吉没する |
| 1600 | | | | 1600（慶長五）年　関ヶ原の戦い |
| 1601 | 松平忠頼 | 徳川氏（将軍家） | | 1601（慶長六）年　家康、東海道に伝馬制を制定 |
| 1609 | 水野重仲 | | | 1616（元和二）年　家康没する |
| 1619 | 高力忠房 | | 軒丸瓦　軒平瓦 | 1619（元和五）年　徳川頼宣、紀伊に移封される<br>1620（元和六）年　幕府、諸大名に大阪城の修築を命ずる |
| 1638 | 松平乗寿 | | | |
| 1644 | 太田資宗・資次 | | 太田氏桔梗紋軒丸瓦 | 1655（明暦元）年　大風雨により、浜松城内に被害<br>1675（延宝三）年　小天竜が彦助堤により締切り |
| 1678 | 青山宗俊・忠雄・忠重 | | 青山氏無字銭紋軒丸瓦 | 1680（延宝八）年　大風により、浜松城内に被害<br>1691（元禄四）年　城内の屋敷で火災 |
| 1700 | | | | 1700（元禄十三）年　城内の屋敷で火災 |
| 1702 | 本庄（松平）資俊・資訓 | | 本庄（松平）氏 鬚九目結紋軒丸瓦 | 1706（宝永三）年　城内の屋敷で火災<br>1707（宝永四）年　宝永地震（二の丸御殿被災） |
| 1729 | 松平信祝・信復 | | | |
| 1749 | 松平（本庄）資訓・資昌 | | 松平（本庄）氏 鬚九目結紋軒丸瓦 | |
| 1758 | 井上正経・正定・正甫 | | 井上氏井桁紋軒丸瓦 | |
| 1800 | | | | |
| 1817 | 水野忠邦・忠精 | | 水野氏沢潟紋軒平瓦（瓦尺不同）　沢潟紋鬼瓦の破片 | 1822（文政五）年　鉄門東櫓を修理する |
| 1845 | 井上正春・正直 | | 井上氏井桁紋軒丸瓦 | 1854（安政元）年　安政地震（二の丸御殿被災）<br>1860（万延元）年　天竜川が決壊し、城下に被害 |
| 1868 | | | | 1868（慶応四・明治元）年　戊辰戦争、明治と改元<br>1873（明治五）年　廃城令<br>1875（明治七）年　二の丸・三の丸払い下げ<br>1945（昭和二十）年　浜松大空襲<br>1948（昭和二三）年　元城小学校二の丸跡地に復興<br>1950（昭和二五）年　浜松城公園開設<br>1958（昭和三三）年　復興天守建設<br>1959（昭和三四）年　天守曲輪・本丸一帯を市史跡指定<br>2014（平成二六）年　天守門復元<br>2017（平成二九）年　中部学園開設 |

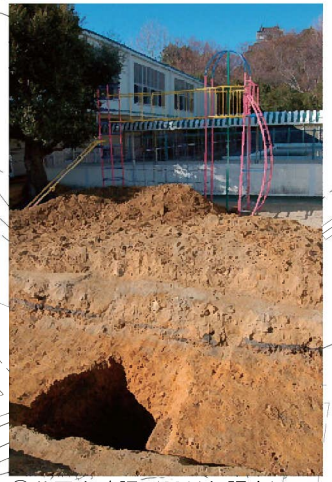
※注意事項
・新聞やテレビ、ホームページ、市刊行物等で現地説明会の様子が紹介される可能性がございますので、あらかじめご了承ください。
・SNS やインターネットに写真・動画を掲載する場合は、個人が特定されるような写真や動画の掲載を控えていただくようお願いいたします。

浜松市文化財課
053-457-2466

# 浜松城跡２６次調査の成果

旧元城小学校の敷地内には、浜松城に関わる石垣や堀、井戸、柱穴、礎石、瓦だまりなどの遺構や戦国時代から江戸時代にかけての土器や陶磁器が良好な状態で埋没している部分があることを確認しました。

**①瓦だまりを確認**
江戸時代の瓦がまとまった状態で出土しました。①・⑤の瓦だまりの位置から、二の丸外周部に瓦葺きの建物があったことがうかがえます。

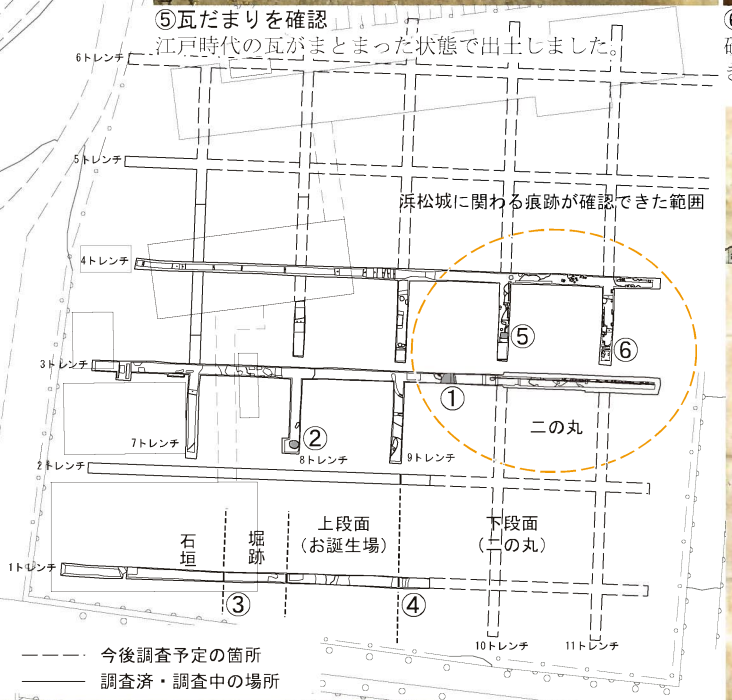


**②井戸を確認（2011年調査）**
2011年の発掘調査によって調査された素掘りの井戸を再確認しました。出土した陶磁器の特徴から徳川家康が整備した浜松城に伴う可能性があります。

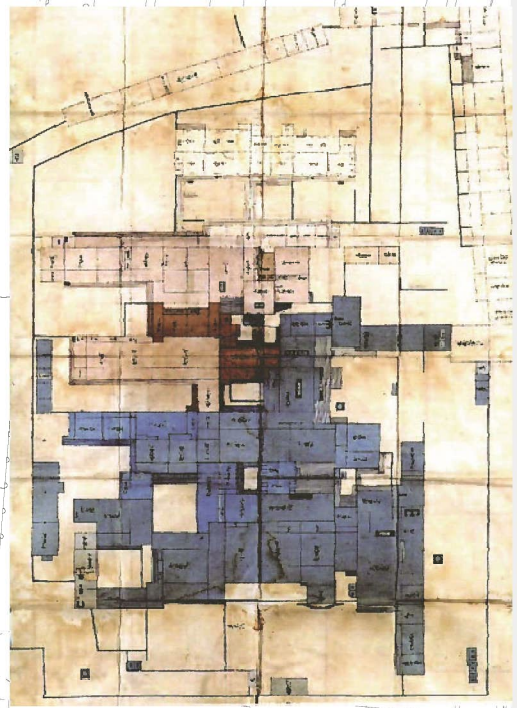
**⑤瓦だまりを確認**
江戸時代の瓦がまとまった状態で出土しました。

**⑥礎石を確認**
礎石の石材はチャートで、長軸80cm、短軸60cmの大きさです。

**③石垣と堀を確認**
本丸東側に構築された石垣と堀を確認しました。石垣はチャートの自然石を用いて造られています。堀の幅は約10mあり、深さは２m以上あります。



**④お誕生場と二の丸の境界にある段差を確認**
敷地の東西で段差があることを確認しました。上段面がお誕生場、下段面が二の丸にあたると捉えられます。




**二の丸御殿絵図（17世紀後半）**
二の丸御殿の詳細は絵図からうかがい知ることができます。御殿の南東寄りに玄関があり、表座敷や書院が連なります。南西部には家臣たちが藩主に対面する上段の間があります。御殿の北東部に台所、北西部に表居間や寝所など藩主の政務や生活を行う空間がありました。